

令和元年度（2019年度）第2回北海道子どもの未来づくり審議会 議事概要

日 時 令和元年8月22日（木）18:00～19:20

場 所 かでる2・7 730会議室

出席委員 松本会長 / 多田委員 / 野村委員 / 梅田委員 / 川島委員 / 山田委員 / 高階委員 / 五嶋委員

事務局 永沼子ども未来推進局長 / 鈴木子ども子育て支援課長 / 齊藤自立支援担当課長 ほか16名

議 事

[審議事項]

(1) 第四期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」策定の基本的な考え方について

○事務局から資料1-1～1-6に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・ 出生率だけではなく、「子育て家庭や若者の意識醸成」という定性的な目標を立てることは、良いことだと感じた。
- ・ 計画の目標値として、道民意識調査などの調査結果を使用する場合、データの性格や項目の選定など、審議会で事前に議論すべきではないか。
- ・ ステージの構成は、前回の審議会での意見を踏まえた内容となっており、分かりやすくなった。
- ・ 資料に「連携」という記載があるが、具体的に何をもち「連携」したと見なすのか。「連携」の中央となるハブ機関というのは、どの機関が役割を担うのか。
- ・ 計画の基本目標で「子どもたちが幸せに育つことができること」と記載されているが、「全ての子どもたち」とした方が良いのではないか。
- ・ 「働き方改革」だけではなく、そもそも働く場が無いと地方で聞くので、「若者の就業の場の確保」について記載することが必要ではないか。
- ・ 子育て中の世代を皆で支援するため、計画の基本目標に「子育て」について盛り込むべきではないか。

(2) 令和元年度（2019年度）「ほっかいどう未来輝く子育て大賞」について

○事務局から、資料2に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・ 表彰された団体の、受賞後の意識の醸成や取組の活性化が図られているのか、確認が必要ではないか。
- ・ 子育てを地域で行っているNPO法人や支援団体以外にも、企業や事業所へこの表彰を広げていくことが必要ではないか。道庁内の福祉畑ではなく、経済畑の部署へ表彰の取組を話題提供していくことが必要ではないか。